九州大学特集２０１５

常に未来の課題に挑戦する大学

九州大学が2011年の創立100周年に続く新時代に向け、飛躍の時を迎えている。05年に始まった伊都キャンパス（福岡市西区）への移転・整備プロジェクトは、18年度までの完了を目指し工事が着々と進む。この10月には第3期中期目標・中期計画期間に向けた今後6年間のアクションプランを策定した。九大は100周年を機に掲げた、全ての分野で世界トップ100大学に躍進する「躍進百大」というスローガンの実現へと向かっている。

豊かな自然に囲まれた伊都キャンパス。奥に見えるのは玄界灘　（福岡市提供）

移転計画 最終ステージ

九州は古来、大陸から文化を受け入れる玄関口となってきた。そのため異文化に対する包容力を持つ風土がこの地域に形成されている。伊都キャンパスは、そのような背景を持った海と山の豊かな自然に囲まれた場所にある。移転プロジェクトは最終の第3ステージに入っており、16年度以降は付属図書館や人文社会科学系、農学系などの移転が計画されている。

10月にまとめた「九州大学アクションプラン2105」は16年度から21年度の6年間が期間。骨子は六つで「世界最高水準の研究とイノベーション創出」「グローバル人材の育成」「先端医療による地域と国際社会への貢献」「学生・教職員が誇りに思う充実したキャンパスづくり」「社会と共に発展する大学」「組織改革」を挙げる。

また重点的に取り組むとして「研究教育機構（仮称）創設によるイノベーションの創出」「新学部の設置によるグローバルに活躍する人材の育成」「人文社会科学分野等の再編成・機能強化による九州大学の更なる活性化」を盛り込んだ。

学術研究では強みを持つエネルギーやアジアなどの研究分野を発展させる。また物質・材料、生命などの分野で研究プロジェクトを推進。カーボンニュートラルエネルギー分野の世界トップレベル研究拠点プログラムに取り組む。人材育成では四学期制を導入。医療では国際遠隔医療教育プログラムの活用を推進する。

九大は地球環境問題や資源・エネルギー問題、難治性疾患の病態や治療の解明などに果敢に挑戦し、多くの成果を上げてきた。今後もそれらの発展を支える支援システムを強化する。学術研究では異分野の接触が新たなフロンティアを開拓する原動力になる。専門化した学術分野の推進とともに学術分野の融合と統合を目指す。

九大は科学技術革新をリードして地域産業の創出と発展に力強く貢献している。同キャンパスを核に教育・研究を推進し、常に未来の課題に挑戦する大学であり続ける。